

Q.

飼料用米というお米があるそうですが、
なぜ水田で家畜のえさを作るのですか。

A.

「飼料の自給率を向上し、畜産物の安定供給を図る」「日本の環境や国土を守っている水田を減らさないようにする」ためです。

1. 飼料の自給率を向上し、畜産物の安定供給を図る

家畜のえさには、とうもろこしなどの穀物を原料とする「濃厚飼料」と、干し草や稲わらなどを原料とする「粗飼料」があります。

ぶた・にわとりには濃厚飼料が、乳用牛や肉牛には粗飼料と濃厚飼料があたえられます。粗飼料の自給率は約8

割と高いですが、濃厚飼料の原料には、とうもろこしが多く使われ、その約9割を輸入にたよっています。この

ように、畜産物を生産するには大量の輸入穀物が必要となるため、海外の穀物価格や為替相場の変動は、日本国内での畜産物の価格や生産量に影響してしまいます。そのため、畜産農家だけでなく、加工業者や消費者にとっても、飼料の自給率の向上が必要となっています。

現在、国は、消費の減っている主食用米の作付けを減らし、代わりに家畜のえさになる飼料用作物の作付けを増やそうとしています。そのため、従来からの水田を使うことができ、お米作り農家にとっても作りやすい飼料用の稲や米の作付けが急増しています。

飼料用を含む穀物の自給率

自給率(%)	昭和40年度 1965年度	昭和60年度 1985年度	平成17年度 2005年度	平成26年度 2014年度 (概算)
飼料用を含む穀物全体	62	31	28	29
飼料	55	27	25	27
粗飼料	100	92	77	78
濃厚飼料	31	11	11	14

資料:農林水産省

肉(卵)1kgを生産するのに必要な穀物(餌)の量	
牛肉 	11 kg
豚肉 	7 kg
鶏肉 	4 kg
卵 	3 kg

資料:農林水産省東海農政局

水田で栽培する飼料用の稲や米には、用途別に、

- ①粗飼料として、くきや葉を利用する飼料用稲（青がり稲）
- ②完熟前の穂、くきと葉のすべてを使う飼料用稲（稲発酵粗飼料＝稲 W C S）
- ③濃厚飼料として、実ったもみを使う「飼料用米」

に分けられます。

青がり稲や稲 WCS には、くきや葉が大きくなる専用品種が使われますが、飼料用米では収穫量の多い専用品種のほか、主食用品種のうち、収穫量が比較的多い品種も使われています。また飼料用米では、もみのままあたえる場合（にわとり）や、もみや玄米をつぶしたり、おしてから使う場合があります。このほか、収穫後の稲わらも、一部が飼料に用いられています。

えさに使われる飼料用稲や米のなかで、作付面積が急増しているのが「飼料用米」です。飼料用米が急増している理由としては、

- ①従来の主食用品種も用いることができるため農家の不安が少ないこと、
- ②農機具などの新調の必要もないこと、
- ③おいしいお米作りには不向きな水田でも栽培できること、
- ④輸入とうもろこしの代わりとして利用が容易であること、
- ⑤生産量に応じた国の支援が行われていること、

などがあります。

飼料用水稲の作付け面積 (ha)

	平成16年度 2004年度	平成21年度 2009年度	平成26年度 2014年度	平成27年度 2015年度 (9/15現在)
飼料用米	44	4,123	33,881	79,766
稲発酵粗飼料	4,375	10,203	30,929	38,226

資料：農林水産省



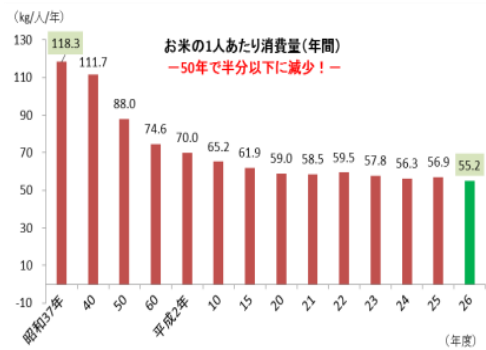
飼料用米の取組状況(平成27年度・9/15現在)

道府県	数量 (t)	面積		道府県	数量 (t)	面積	
		(ha)	前年比 (%)			(ha)	前年比 (%)
北海道	12,523	2,347	229.6	滋賀	3,386	657	71.1
青森	41,130	7,211	156.4	京都	558	108	16.1
岩手	22,043	4,155	104.2	大阪	14	3	-
宮城	25,834	4,850	148.2	兵庫	895	172	39.8
秋田	16,540	2,946	149.7	奈良	310	60	140.0
山形	22,301	3,726	73.3	和歌山	17	4	100.0
福島	19,530	3,787	326.5	鳥取	5,694	1,090	65.2
茨城	36,698	7,011	180.6	島根	5,675	1,104	47.6
栃木	48,874	9,248	134.5	岡山	6,176	1,167	200.8
群馬	8,659	1,753	168.0	広島	1,992	375	298.9
埼玉	13,559	2,770	193.1	山口	2,996	597	123.6
千葉	21,362	3,995	251.3	徳島	4,666	988	409.3
神奈川	79	16	14.3	香川	1,869	375	393.4
新潟	18,523	3,414	289.7	愛媛	1,177	236	90.3
富山	3,407	634	81.7	高知	4,090	916	124.0
石川	2,731	537	78.4	福岡	7,552	1,533	33.0
福井	3,729	719	136.5	佐賀	1,841	358	25.6
山梨	71	14	366.7	長崎	766	164	31.2
長野	2,345	370	107.9	熊本	6,679	1,296	49.5
岐阜	11,627	2,436	126.6	大分	6,931	1,359	28.8
静岡	4,595	891	50.0	宮崎	2,218	449	164.1
愛知	8,775	1,752	68.3	鹿児島	3,643	773	157.7
三重	7,007	1,405	101.5	合計	421,077	79,766	135.4

資料：農林水産省
注：東京都と沖縄県は取組なし

2. 日本の環境や国土を守っている水田を減らさないようにする

日本では、年々お米の消費量が減っています。国の調査によれば、平成26年（2014年）の日本人1人当たり年間のお米の消費量は55.2kgで、この50年間で半分以下にまで減ってしまいました。お米の消費量の減少率は、近年では緩やかにな



っていますが、今後も消費量に合わせてお米の作付面積を減らすことが必要となります。このままでは、20年後の平成47年（2035年）には、現在（平成26年産）の東海、近畿、中国地方を合計した作付面積

主食用米の需要見通し

	需要見通し(万t)	必要な作付面積(万ha)	平成27年との差(万ha)
平成27年(2015年)	770 (a)	145	-
平成37年(2025年)	761 (b)	144	▲1
平成47年(2035年)	608~624 (c)	115~118	▲30~▲27

資料:(a)(b)農林水産省、(c)米穀機構

に匹敵する30万ヘクタールも減らすことが必要になってしまうかもしれません。

ところが、水田の機能はお米を作るだけでなく、「空気清浄」「温暖化防止」「水資源の確保」「洪水や地滑り防止」など日本の環境や国土を守る役割も持っています。水田を減らすことは、目には見えないけれども私たちを守っている機能を失うことにもなり、影響は農業だけにとどまらなくなってしまうのです。減少する主食用米に代わり、水田を用いて飼料用の稲や米を作付けすることで、これらの機能を維持することができます。また、飼料自給率の向上と畜産物の安定供給も可能になります。

最近では飼料用米で育てたことなどをアピールした肉類や卵が売られていて、お店やインターネットでも買えるようになりました。飼料用米を、えさに混ぜたぶた肉は、オレイン酸が増え、うま味などおいしさが増すことがわかっています。食べた人の感想^{*}も「かみごたえがありおいしい」と好評です。

また、にわとりでは、飼料用米の割合を高めると、卵の黄身の色がレモンイエローになるほか、生ぐさが消え、さっぱりした味になることがわかっています。

^{*}: コープネット おいしさ探訪「産直お米育ち豚」より

日本の環境保護、国土保全だけでなく、畜産物を安定して食べることができ
るようになるためにも、飼料用の稲や米などを使った畜産物の生産を増やすこと
が大切となっています。



さらに詳しく知りたい方のために

○飼料自給率を含む食料自給率

農林水産省「知ってる？日本の食料事情」

> <http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/index.html>

○飼料用米関連情報

農林水産省「飼料用米関連情報」

> <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/siryouqa.html>

○飼料用米などの流通経路

米穀機構「図解 お米が消費者に届くまで－生産・流通・価格形成」

> <http://www.komenet.jp/kids/index.html>

○お米の消費量の将来予測

米穀機構「ライフスタイルの変化と米消費の動向」

> <http://www.komenet.jp/shouhichi/995.html>

○水田の環境保全等に果たす役割

米穀機構「米ネット」

> <http://www.komenet.jp/faq/sc06.html>